

2021 年度 地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の検討に係る研究会報告書

2022 年 3 月 31 日

公益財団法人都市活力研究所

1. はじめに

(1) 研究会の名称及び目的

この会は、地域課題の発見及び解決のための人材育成手法の検討に係る研究会と称する。本研究会は、大阪・関西の持続的発展のため、地域活動やコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスを振興し地域社会の公益に資する人材を育成する手法及びそれに関連する事項について調査・研究することを目的とする。

(2) 活動内容

- a. 社会・地域課題の発見・解決に係る情報収集及び整理
- b. 社会・地域課題の発見・解決のためのフレームワークの構築の検討
- c. 試行的に行う人材育成講座に対するアドバイス
- d. その他本研究会の目的を達成するために必要な事項

(3) 研究会名簿（順不同、敬称略）

<会員>

大阪大学 人間科学研究科 教授 三好 恵真子

大阪大学大学院工学研究科

地球総合工学専攻 建築・都市計画領域 特任助教 辻 寛

学校法人 武庫川学院 武庫川女子大学

大学事務室統括部 中央キャンパス大学事務室（経営）

実践学習センター

時任 啓佑

大阪市都市整備局 企画部 まちなみ環境担当課長

若井 富美代

大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 特任研究員

弘本 由香里

阪急阪神ホールディングス グループ開発室部長

石原 敏孝

公益財団法人都市活力研究所 専務理事

生井 昌樹

<事務局>

NPO 法人 Co. to. hana コミュニティデザイナー

丸毛 幸太郎

公益財団法人都市活力研究所 主席研究員

三本松 道昭

(4) 研究計画

複数年次継続して研究会を開催することとし、年間の開催頻度は3回程度とする。

(5) 本年度の活動状況

開催日時	内容
<p>【第7回】 6月21日(月) 19:00~21:00</p>	<p>講師：NPO 法人 Co. to. hana コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎 様 報告：人材育成講座の計画について</p>
<p>【第8回】 11月17日(水) 18:00~20:00</p>	<p>講師：デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長 永田宏和 様 事務局長 近藤健史 様 他 演題：「KIIT0300 を含む、KIIT0 全体のこれまで と今後について 及び KIIT0300 を含む 施設見学及び意見交換」 講師：公益財団法人都市活力研究所 主席研究員 三本松道昭 報告：人材育成講座 Social Mirai Design の実施 状況について</p>
<p>【第9回】 3月29日(火) 20:00~21:00</p>	<p>講師：NPO 法人 Co. to. hana コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎 様 報告：人材育成講座 Social Mirai Design 第4期 の実施結果について</p>

2. 研究会活動を通じて得られた情報・知見（講演録）

第7回研究会

（1）人材育成講座の計画について

NP0 法人 Co. to. hana コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎 様

○今回も「激変する時代の未来デザイン」を掲げているが、テーマをコミュニティに定めて深掘りする企画としている。前年度と違うところは、これまでの受講生 10 数名の意見を聞きながらこの講座を作っている。その中でオンラインサロンなどが出てきているが、改めて「コミュニティって何？」という問いが出てきた。それでコミュニティを改めて考えてみたいということになり、そのテーマを基にゲストを選んだ。なお、前年度受講生 3 名が事務局的作用を担ってくれている。

第 1 回はキックオフで、第 2 回は下記の 3 名の講師を招いてのクロストークとし、コミュニティについていろいろな立場からお話しを伺い、受講生が考えたい問いを見つけてもらう機会とする。第 3 回のワークショップで自分の問いをつくることとしている。

- ・株式会社 MIMIGURI Manager / Researcher 東南 裕美氏 「コミュニティ×研究」
- ・としま会議 代表 中島 明氏 「コミュニティ×まちづくり」
- ・note 株式会社 事業開発 半田 美幸氏 「コミュニティ×企業」

そこからは、より深めて探求していく機会とする。

- ・（第 4 回）「ティール組織（英治出版）」解説者 嘉村 賢州氏 「コミュニティ×ティール組織」
- ・（第 5 回）Community Nurse Company 株式会社代表取締役 矢田 明子氏 「コミュニティ×地域医療」
- ・（第 6 回）最後の講師は未定で推薦枠としている。

第 7 回はクロージングとして全体を通じた気づきや学び、今後のアクションを話してもらおう。

以前この研究会で出た意見として、受講して終わりではなくそれ以降の活動が大事だということで、今年度は 2 クールを実施する。1 クール目の受講生が、2 クール目のプログラムをつくれるというふうにしていく。1 クール目は 7～9 月、2 クール目は 12 月～2 月を考えている。ポイントは、講座を受講するのはきっかけであり、その後の活動につなげるためには自分たちも作る側に回って先輩にもなるし仲間もできるという体験をしてもらうというところまでが人材育成講座の新しいモデルだと思っている。

○プレイベント（説明会）の日程

- ①2021 年 6 月 25 日（金）20:00-21:30
- ②2021 年 6 月 27 日（日）10:00-11:30
- ③2021 年 7 月 4 日（日）10:00-11:30

○講座の日程

7 月 18 日（日）から 9 月 26 日（日）までの全 7 回。今回はできるだけ離脱を抑制するため日曜日の午前としている。

第8回研究会

(1) 「KIITO300 を含む、KIITO 全体のこれまでと今後について
及び KIITO300 を含む施設見学及び意見交換」

デザイン・クリエイティブセンター神戸

センター長 永田宏和 様

事務局長 近藤健史 様 他

■建物概要

敷地面積：8,601 m²、延床面積 旧館：3,489 m² 新館：10,290 m²

施工年 旧館：1927年 新館：1932年

レンタルスペース数：6スペース

クリエイティブラボ：38室

■レイアウト

1階：KIITO ホール・ギャラリー、カフェ、ショップ、CREATIVE LOUNGE

2階：生糸検査場ギャラリー、貸ギャラリー、ライブラリー、三宮図書館の仮移転

3階：KIITO300、レンタルスペース

4階：クリエイティブラボスペース

■KIITO のネーミング

もともと生糸の検査工場として設立され、西日本を中心に全国で作られた生糸がここへ運ばれて品質検査・等級分けをして海外に輸出されていったという歴史がある。その糸と糸を紡いで色々なクリエイターや市民が集まってきて、何かプロジェクトを起こしていったり活動したりするということと、糸から布を編み出すようなことが近いということで、KIITO (生糸) という愛称で呼ばれるようになった。

■設立の背景

KIITO がなぜ設立されたかということ、神戸市がユネスコのデザイン都市に認定されたということに起因している。特に、ユネスコは創造都市ネットワークを掲げており、その中にはデザイン部門、映像部門、工芸部門などがあるが、神戸はデザイン部門で認定されている。デザイン都市は世界で43都市あり、日本では他に旭川、名古屋がある。それでデザイン都市神戸の拠点として2012年8月にオープンした。

■KIITO の事業運営

㈱iop 都市文化創造研究所と㈱いきいきライフ阪急阪神がJVで運営している。前者は自主事業(企画事業部門)、後者はレンタルスペース等の事業(プロパティマネジメント部門)を担当している。

■これまでのキャッチコピーと方向性

(キャッチコピー) みんながクリエイティブになる。そんな時代の中心になる。

(方向性) あらゆる世代を対象とした創造教育拠点

デザインやクリエイティブを使って社会課題を解決するというのが、これをやり始め

た 2012 年当時は理解されなかったが、9 年経って理解が進んだ。

■KIITO のフィロソフィー（活動理念）

風：KIITO

種：活動、プログラム

水：市役所、区役所、社協、まちづくり団体、地域団体、NPO、大学、企業（社会貢献）

土：神戸市民（子ども、大人、高齢者）

今は“土”のコミュニティが崩壊・希薄化している時代で、“土”が枯れてしまった状態。そういうなかで、旧来の種が機能しないので、色々な地域活動もままならない状況だ。そのような乾いた土にも効く強い種を品種改良して植える必要があるが、強い種を作れる人がおらず植え換えれる組織もない。地域の人たちが種を作り変えることもできないというなかで、KIITO は、神戸をフィールドに強い種を品種改良して開発して、それを地域に紹介したり、植えたりしている（神戸モデル）。

■いい種の二つの条件

○不完全プランニング 関わり代をつくる 余地をつくる

○+クリエイティブ 魅力化する「夢のような」「楽しい」「ワクワクする」など

■KIITO のコンセプト

「+クリエイティブ」デザインやアートに加え、既成概念にとらわれないアイデアや工夫を取り入れ、身の回りの社会課題を解決する手法。課題+クリエイティブ。課題はまちづくり、教育、観光、防災、環境、高齢者問題、都市施設（道路・公園）、福祉（医療・障がい者）

我々は企画のプロだと位置づけて、神戸市の各部局の方に課題を持ち込んでもらって、興味関心のある市民を集めてゼミを開講して、リサーチと議論を重ねながら、その分野の課題を解決していけるような強い種を作って、実装させていくということを繰り返してきた。

■ちびっこうべ

「ちびっこうべ」はキッズニアのようなものを何も無いところから子どもたちとクリエイターと一緒に作る。建築家と子どもたちが飲食店の建物をつくり、料理はシェフが子どもたちに教えて、ロゴマークやユニフォームはデザイナーが子どもたちとつくるということを、2012 年に立ち上げて 2 年に一回開催している。ユネスコの先進的事例を集めた冊子『Voices of the City』で日本国内の活動で紹介されているのは唯一これだけだと思う。

■パンじい

神戸はパンの街であり、ちびっこうべでのご縁があって、スタッフの加藤が食の担当としてそのパン屋のシェフたちと深く結びついている。リタイアしたおじいちゃんの居場所問題というのが非常に大きくクローズアップされている。おじいちゃんが昔の自慢話ではなく、新しく誇れる技を磨けばいいのではないかと考えて、それでプロ級のパンが焼ける講座を行っている。やってみたら非常にうまく行って、全国に広がり始めている。

■動画鑑賞

・ちびっこうべ ・男・本気のパン教室

■いい「種」をつくれる「風の人」を育てる（ゼミ）

ゼミでは課題に興味関心がある市民が集まって、そこから生まれたアイデアがカタチになっている。ふれあい喫茶という地域でも老々介護みたいな様相を呈しているコミュニティ喫茶を子どもが手伝えるようにする（ちびっこうべのカフェ版）とみんなが Win-Win になれる。仮設のピザ窯を寂しい公園に持って行ったら人が集まる。date. KOBE も主婦のアイデアが神戸の観光キャンペーンになっている。36 回ゼミをやっており、ゼミ特集のニュースレターにも記載があるように 25 の事業が事業化されている。

■新キャッチコピー これまでも、これからも。クリエイティブがつくるのは、元気だ。リニューアルが新しい節目になって、神戸の街をもっと元気にしようということで、新しいキャッチコピーをつくった。これは岡本欣也氏という日本を代表するコピーライターに頼んでいる。

■施設リニューアルの概要

○クリエイティブラウンジ（1 階）

これまでのレンタルスペースに 30m のカウンターを作って、自習したり本が読めたり仕事ができたりするスペースに生まれ変わった。

○KIITO SHOP（1 階）

KIITO のオリジナルグッズや、協働するクリエイターの商品、コラボグッズなどを販売

○「創造的学びと文化活動のスペース」設置（3 階）

コンペの時に 2 つの機能を作ることが提示された。1 つ目が「子どもの創造的学びの拠点」。期間限定のイベントだけでなく、ここに拠点をつくって毎週土日に子ども向けのプログラムを行う。学童保育のクリエイティブ版を土日にやるというイメージ。2 つ目が「社会貢献活動プラットフォーム」ということで地域活動、社会活動をしている方々のクリエイティブなサポートと、そういう活動をする新しい人材を育てるということ。プレイヤーがいないので学生や社会人のプロボノ、シニアという人たちを育成するということだ。

○ブランディング 岡本欣也氏と寄藤文平氏

スペースの名前 KIITO : 300 (キイトサンマルマル) 元気が集まる。元気が広まる。

子どもの創造的学びのプラットフォーム KIITO : 300 キャンプ

社会貢献活動プラットフォーム KIITO : 300 ファーム

○KIITO : 300 の施設構成

キッチン、ワークスペース、セミナー会場、会議スペース等

■KIITO : 300 キャンプの取り組み

創造的学びのプログラムを展開するが、ここに子どもたちを集めてその子どもたちを喜ばせるというよりは、ここでプログラムのモデルを作っていく、最終的には地域の方々（地域・公教育・家庭）に提供することを念頭に置いて活動している。そのために効果検

証が重要なので、大阪教育大学の先生たちにも入っていただいている。土日開けると言ったが立地的にきびしいので、ちびっこうべのスマール版のコンテンツ（カフェ、ショップ、映画館、ミニ遊園地など）をゴールにしたプログラムを考えている（3 か月、1day）。小学校の総合学習で実施予定の新しいプログラムである「ユメイエ。」は、子どもたちが夢の家を作るというワークショップで、入居している畑友洋氏という建築家が講師となって、子どもたちに構造（家を支える仕組み）や環境（家の中の居心地）を教えてくれている。またキャンプではボードゲームにも注力している。地元の企業などと組んで、創造教育のプログラムを作るということもしている（アシックス・VIVITA）。キャンプ専属のサポーター“キャンパー”を募集して、100名を超えるぐらいの登録がある。

■KIITO：300 ファームの取り組み

○神戸ソーシャルキャンパス 社会課題解決分野における大学生や大学との連携

関西圏の大学の中に、社会課題解決型の人材育成機関ができています。そういうところと組んで、お題を出して共通の課題でワークショップや演習課題をやる。

神戸大学の V. School と大阪大学の SSI 超域イノベーション博士課程プログラムと組んで、フラワーロードで SDG s をテーマにした共通のイベントを企画してもらおうという取り組みをしている。合同の発表会を 10 月 16 日に開催して、年内にイベント実施に向けた企画のキックオフミーティングを行うという状況である。

○社会課題解決分野における社会人や企業との連携

社会人のプロボノというよりも、シニア層の新しい担い手を育成したほうがすそ野も広いので可能性があると思っています。キッチンができたので、スキルアップ講座を行っている。パンじいだけでなくコーヒーじいもカレーじいもいるので、そういうチームのフォローアップ研修も始まっている。これからパンじいが、子どもにパン作りを教える教室も始めようと思っています。

○協働と参画のプラットフォーム 地域課題解決分野における地域団体や NPO 法人に対する支援

地域課題解決＋クリエイティブミーティングということで、30 人弱ぐらいの個人で活動されている方が悩みをもってきてそれをみんなでシェアしながらアドバイスをする会をやって、非常に評価が高かったので、頻度を上げてやろうかという話をしている。

○オンライン配信 社会課題解決手法を学ぶ「1day ワークショップ」

ゼミは毎週火曜日の晩にシリーズで行っているが、こちらは 1 日で手法を学べるようなワークショップであり、オンラインで全国の大学生等を対象に年に 2、3 回はやりたいと思っている。

○相談対応／専門的助言／マッチング 社会貢献活動コンシェルジュ

私の他、ダイバーシティ研究所の田村太郎氏、しみん基金・KOBЕ の戸田氏に相談員になって頂いて、様々な市民活動、社会活動の相談対応をしている。今後相談対応からプロジェクトに移っていくということも必要だと思っている。

(2) 人材育成講座 Social Mirai Design の実施状況について
公益財団法人都市活力研究所 主席研究員 三本松道昭

事務局より資料に基づいて簡単に説明した。

○第3期の総評

・「探求」という目的と結果が合致していた。満足度も高く、離脱者も少なかった。

○第4期に向けた進捗

・コアメンバー（事務局として全体を推進するメンバー）として2～4名から意思を確認できた。

・10名程度のサブメンバー（会議に参加したり、スポットで協力してもらったりする人）もいる

・4期は3期よりも実践やアウトプットを志向するプログラムになる見込み

・全体として期間が短くなるためこれまでのプログラムと設計を変える必要がある

第9回研究会

(1) 人材育成講座 Social Mirai Design 第4期の実施結果について

NP0 法人 Co. to. hana コミュニティデザイナー 丸毛幸太郎 様

○Social Mirai Design 第4期の概要

オンラインホワイトボードアプリ Miro で Social Mirai Design 第4期のプロセスについて説明があった。今回は全6回の講座を行った。1月30日にキックオフで参加者がお互いのことを知り、Miro などの使い方の説明を行った。2・3回は過去の動画と記事を読んで対話するワークショップとした。今回は、自分なりのアクションを考えていただくことを基本としているが、第4回には3名にゲスト講師を招いてお話を伺った。5回目の中間発表では講義とワークショップを踏まえて自分なりのアクションプランを発表していただいた。第6回にはどのようなアクションをしたかという紹介と振り返りを行った。

コロナ禍での講座の特徴としては、slack のほか Miro で学びの記録を可視化しながら進めてきた。例えば第1回のワークショップでは自分が大事にしたいことと最初の一步を決めていただくのに Miro を用いた。最終のまとめのシートも Miro で作成していただいた。そこには参加動機や自己の強みから始まって気づき・学び、自分の周りにあること・自分ができること・コラボしたい人や団体、これからやってみたら面白そうなこと、それに関する Why・How・What でやることを具体化した結果を記録していただいている。参加者は大学生・大学院生が6名、公務員、学校の先生、研修講師などの社会人4名であった。

アンケート調査でどんな気づきや学びがあったか、どんな一步を踏み出したのか、今後の活動への関わりの意向などを聞いている。

3期の受講者のうち3~4名が事務局メンバーとして活躍していただいた。

○4月末に Social Mirai Design の3・4期の報告書をまとめる予定。

○5期は行わないが、1~4期の活動の知見をまとめて広める活動を実施できないか検討中。

○Slack と Facebook での情報交換は継続する。